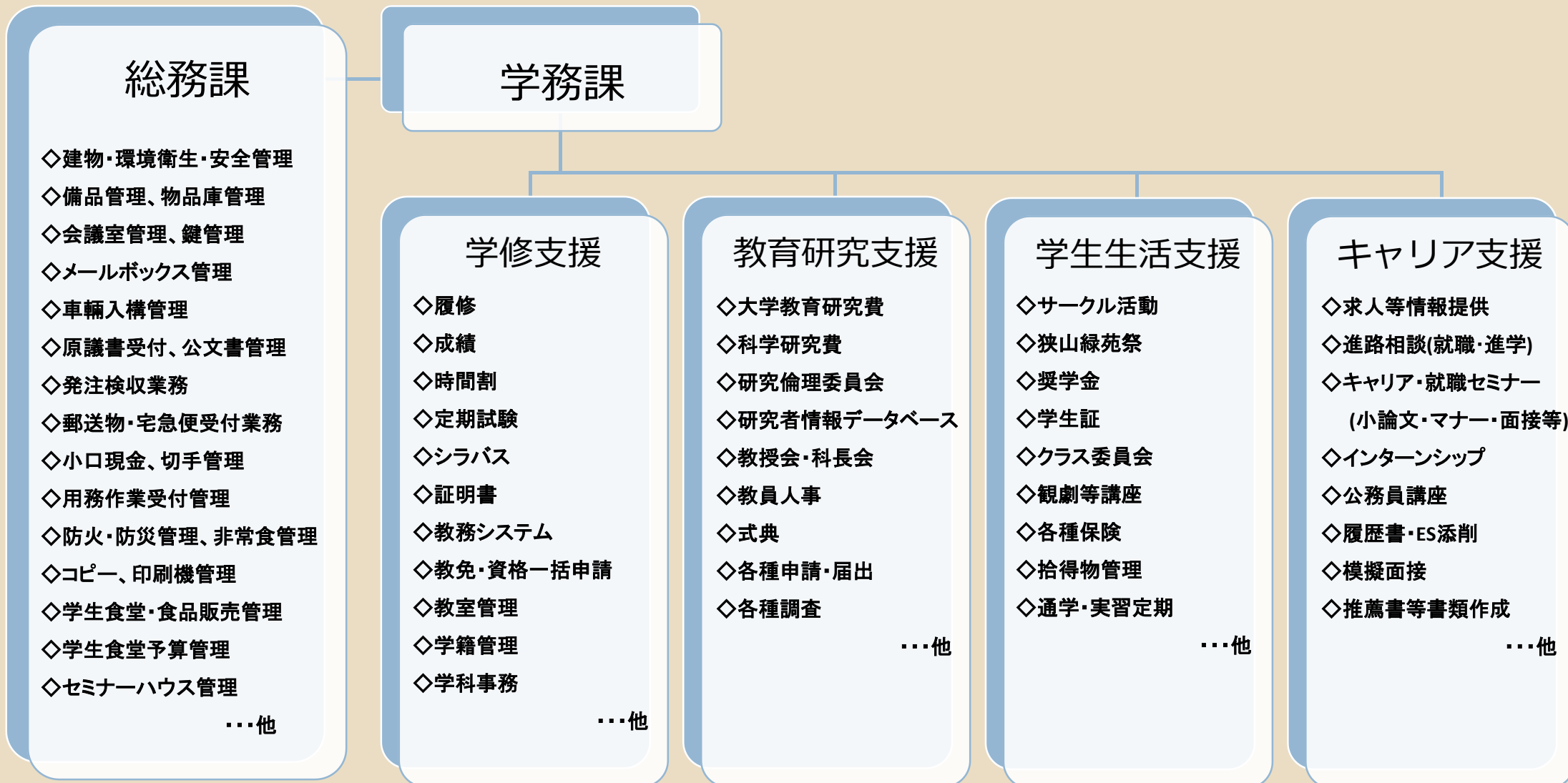


# 狭山学務部の 取り組み

～中期計画に基づいた改善への取り組み～

# 狭山学務部とは... (各課の業務内容)



# 狭山学務部に求められるミッション

「学校法人渡辺学園 2020(令和2)~2024(令和6)年度中期計画」より

- 科学研究費等競争的資金の申請・採択の増加に努める
- 「しなやかに凜と生きる」力と多様な生き方を認め、支える、共感性豊かな女性を育てる
- 多様な事情を抱える学生が安心して学生生活を送れるようなセーフティネットを構築する
- 学生と教職員との協働による「大学づくり」をすすめる。
- 高い就職率を維持するとともに、自分の多様な可能性に気づきチャレンジするマインドを育てるキャリア教育を充実する
- 全教職員が目標を共有し、協働する「大学づくり」をすすめる
- 大学改革を支える事務組織を再編・強化し、教職協働を確立する

・・・など

狭山キャンパス唯一の  
事務部門である  
狭山学務部には、様々な  
ミッションへの取り組み  
が求められている。

# 令和5年度に取り組んだ課題（1）

課題1：狭山セミナーハウス かせいの森「セミナー室」の再稼働

課題2：他部署との連携も含めた事務効率化

課題3：manaba、Garoon、K-PORT等の活用

## 該当する中期計画の項目

「大学改革を支える事務組織を再編・強化し、教職協同を確立する。」

- 事務業務の徹底的な見直しをすすめ、不要・重複業務の廃止、手続きの簡素化・マニュアル化、ITの活用による合理化など、事務業務を縮減する。板橋・狭山キャンパス間の事務組織や業務の分担等を見直し、迅速かつ省力的な業務ができるようにする。

課題4：科研費申請支援の充実

## 該当する中期計画の項目

「科学研究費等競争的資金の申請・採択の増加に努める。」

- 大学・短大における科学研究費等競争的資金獲得の奨励については、すでに教育支援センター教育・研究支援課を中心に全学を挙げて取り組んでおり、本計画前6年度に遡ると申請・採択とも増加した資金も増えている。これを更に進める。

# 令和5年度に取り組んだ課題（2）

- ・ 課題5：学生と教職員の協働

## 該当する中期計画の項目

「学生と教職員との協働による「大学づくり」をすすめる。」

- 学生の提案等により、学生が教育・学生支援に主体的に参画できる多様な仕組みを開発、実施する。

- ・ 課題6：学科と協働した就職支援プログラム

- ・ 課題7：manabaを利用した個人サポート

## 該当する中期計画の項目

「高い就職率を維持するとともに、自分の多様な可能性に気づきチャレンジするマインドを育てるキャリア教育を充実する。」

- 全学にかかるキャリア支援にかかわる科目を中心に、地域の多様な企業等と連携した中・長期インターンシッププログラムや業支援など、学生にとって新しい発見・体験につながるプログラムを開発、実施する。

# 課題 1 : 狭山セミナーハウス かせいの森 「セミナー室」の再稼働

## 問題点・課題

- 利用申込みの際、総務課と学務課の2か所での手続きが必要で、利用者にとって煩雑だった。
- 利用予定表をコピーして、総務課－学務課間をやり取りしていた。

## 計画・実行したこと

- 学生の動線を考え、先に総務課で利用申込書の確認を行うこととした。コロナ前の業務から業務フローの見直しを行った。
- 最新の利用予定が確認できるよう、共有フォルダを作成した。このことによって、各種手続き書類の共有もできた。
- 利用の手引き・申込み方法など学生配付用書類を見直し、デザインを一新。利用者にわかりやすい書式に変更した。

## 改善による効果・反省点

- 学生が行ったり来たりすることなく、担当部署に来課し利用申込みができるようになった。
- 総務課－学務課間において、利用予定表のコピー・受け渡しの必要がなくなった。
- 令和5年7月より利用を再開したので、一年を通して宿泊利用を受け付けていない。実習に伴う宿泊者が増えた際の情報の共有や感染症対策などの準備をしていきたい。

# 課題2：他部署との連携も含めた事務効率化（1）

## ～科研費における研究遂行環境の整備～

### 問題点・課題

- 科研費の新規課題や補助金課題は、交付申請後、数か月経ってから、日本学術振興会からの研究費が入金される。本学では、入金確認後から研究費の使用が可能となる。
- 研究期間開始日から研究費が入金されるまでの期間は、研究費を使用することができないため、研究遂行に支障があった。

### 計画・実行したこと

- 経理課及び教育・研究支援課と調整のうえ、研究費を一時的に学園立替で支払うことで、すぐに研究費を使用できるようにした。
- 日本学術振興会からの研究費入金前から研究および研究費の使用ができるよう、学園立替の業務フローを作成し、実行した。
- 導入後も各部署と問題点を共有し、学園立替の業務フローの見直しや整備を行った。

### 改善による効果・反省点

- 日本学術振興会からの入金を待たずに執行申請ができるようになったことで、研究期間開始日から、速やかに研究を遂行できる環境を整えることができた。
- 整備した学園立替フローを基に業務を行っているが、事務処理が煩雑であるためか、必要な押印漏れや、証憑類の写しの送付を失念するなどのミスが生じている。引き続き、業務の簡素化を目指して関係部署と調整のうえ、問題点の改善を行う。

# 課題2：他部署との連携も含めた事務効率化（2）

## ～学籍カード記載内容の変更手続き～

### 問題点・課題

- 学籍カード内容変更手続きをした学生は、手続き後、クラス担任等複数箇所に変更を申し出る必要があった。
- 変更受付後、学籍カードの変更内容を各部署に配付する手間（用紙をコピーして封筒に入れて配付する）がかかっていた。

### 計画・実行したこと

- 学生の変更申し出先は学務課のみとし、担任、各部署等への配付はすべて学務課が行うことにした。
- 複写式の届出用紙を廃止し、部署内で印刷した。  
（R6年度よりMyCampus狭山に届出用紙を掲載する予定）
- 各部署にはPDF化した届出用紙をファイル送信サービスにより暗号化して送信した。

### 改善による効果・反省点

- 学生の手続きを学務課に一本化し、各部署への変更内容の共有方法をメールに変更したことで、学生の利便性向上と業務の効率化を実現できた。
- 複写式用紙の業者発注をやめたことにより経費を削減することができた。



# 課題3 : manaba、Garoon、K-PORT等の活用 (1)

## ～学修支援の充実～

### 問題点・課題

- 履修登録、試験、成績に関する複数学生からの同一の問い合わせへの個別対応に時間を要している。
- ポータルの発信情報は、他部署の情報も多くあることから、学生が必要とする情報の確認が困難な状況である。

### 計画・実行したこと

- manabaに学修支援のコースを開設し、履修・試験・成績に関するポータルの発信情報を集約した。
- manabaの個別指導コレクション機能を活用し、個々の質問に対応できるようにした。
- ホームページ及びmanabaによくある問い合わせのQ & Aを掲載し、学生自身で問題解決できるよう、支援体制を整えた。

### 改善による効果・反省点

- 発信情報をmanabaのコースに集約することで、日々の各部署からのポータルメッセージで埋もれがちな情報を確認しやすくなり、問い合わせがあった際も案内しやすくなった。
- 個別指導コレクション機能を活用し、学生が時間を気にせず質問できるようになった。

# 課題 3 : manaba、Garoon、K-PORT等の活用 (2)

## ～教室管理の効率化～

### 問題点・課題

- 教室の管理や予約を紙で行っているため、手書きによる書き間違いやバッティングが発生した。
- どの教室を予約したか紙を見ないと確認ができないため、問合せの連絡が多かった。

### 計画・実行したこと

- 他大学の教室管理方法や使用している教室予約システムの調査を行った。
- 板橋で利用している会議室予約を参考に、Garoonの施設予約機能開始に向けた権限を取得して、各種設定をした。
- システム取り込み用データ(csv)を作成した。
- Garoonに表示する施設の情報を登録した。

進行中！

### 改善による効果・反省点

- 手書き業務を削減し、入力することによる効率化やミスの減少が見込める。
- 教室予約をGaroonで確認できることによる、教室確認の問合せ減少が見込める。
- システム取り込み用の元データ作成に時間がかかり、目標としていた令和5年度中の導入に至らなかった。令和6年度からの運用を目指す。

# 課題 3 : manaba、Garoon、K-PORT等の活用 (3)

## ～学生対応記録の共有～

### 問題点・課題

- 学生対応の記録を担当ごとに管理しており、情報共有が不十分である。
- 学生対応記録を共有することができれば、より手厚く、より適切な学生対応ができるようになる。

### 計画・実行したこと

- 課内の学生対応記録の管理状況を確認した。
- 情報の一元管理を目指し、既存のシステムの活用を検討した。
- 「K-PORT」の機能を活用することで改善が見込めるため、管理部署へ相談し、利用許可を得ることができた。



進行中!

### 改善による効果・反省点

- 令和5年度中にK-PORTによる学生対応記録を試験的に稼働し、令和6年度からの本格的な運用を目指す。
- K-PORTに学生対応の記録をすることで、教員とも情報共有ができるようになる。
- K-PORTの利用方法が事務職員に浸透していないため、学務課で活用する機能について、使い方や記録方法等のガイドラインを作成する必要がある。

# 課題4：科研費申請支援の充実（1）

## ～申請書作成支援～

### 問題点・課題

- ・ 教員数に対して申請件数が少ない。
- ・ 科研費担当者が限られた期間内にすべての研究計画調書を細部まで確認することが困難である。
- ・ 研究計画の妥当性などを相談できる環境を整えることで採択件数の増加が期待できる。

### 計画・実行したこと

プレアワード支援「科研費申請作成支援講座」

- ・ URAとして活動した経験のある本学教授と外部URAによる講座、動画教材の作成、申請書個別レビュー指導を実施した。

「申請書レビュー」

- ・ 令和5年度から外部事業者による申請書個別レビュー支援を導入した。

### 改善による効果・反省点

- ・ 全学的には応募数が34件 → 41件と7件増、狭山校舎では14件 → 23件と9件増加した。  
※採択結果は2月下旬に日本学術振興会から通知される予定。
- ・ 申請書レビュー支援の利用教員からは「支援内容が的確で良かった」との声があがる等、高評価だった。
- ・ 令和6年度はさらに申請書レビューの利用者数を増やし、採択件数の増加を目指す。

# 課題 4 : 科研費申請支援の充実 (2)

## ～科研費研究計画調書閲覧サービス～

### 問題点・課題

- 教員数に対して申請件数が少ない。
- 科研費への応募はハードルが高いと感じる研究者がいる。
- 不採択が続いている研究者へのアドバイスが難しい。

### 計画・実行したこと

- 過去に本学で採択された科研費の研究計画調書を、希望者に開示する仕組みを「科学研究費助成事業研究計画調書閲覧制度」として整備した。
- 科研費への採択経験がある研究者へ、研究計画調書開示への協力を依頼した。
- 閲覧ファイル・閲覧簿を整備し、サービスを開始した。
- 教授会において、制度の周知を図った。

### 改善による効果・反省点

- 制度整備への着手に時間がかかってしまった結果、科研費の公募締切期限直前での開始となり、閲覧可能な計画調書を十分に準備することができなかった。引き続き、採択経験者への協力を依頼する。
- サービス開始から公募締切までの期間が短かったせいか、閲覧希望者が少なかった。
- 次年度以降は、科研費公募開始前に閲覧制度について改めて周知をし、利用者数の増加を目指す。

# 課題 5 : 学生と教職員の協働 ( 1 )

## ～学科間交流会～

### 目的・課題

- 学科間の交流を深めることで狭山キャンパスの活性化を目指す。
- 学科内の縦の繋がりを作ることで勉学に励む環境づくりをより一層強化する。
- 学科間交流会を通して学生同士の交流を図り、大学生活の思い出作りをする。

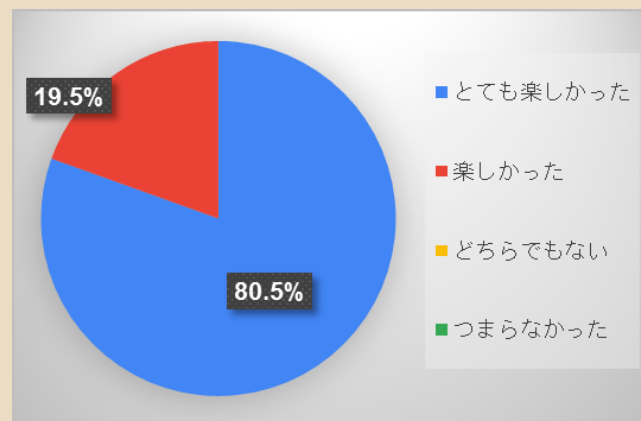
### 計画・実行したこと

- 6/8 (木) ドッジボール大会の開催
- 9/28 (木) ミニ運動会の開催
- 12/5 (火) レクリエーション大会の開催



### 学生満足度

【ドッジボール大会】  
今回の大会の満足度を  
教えてください。



### 改善点

- 参加学生を増やすために、教員から学生に開催周知の協力を依頼する。
- 参加者アンケートの結果を公開する。
- 実行委員の人数を増やすために、行事等で募集を行う。

# 課題 5 : 学生と教職員の協働 (2)

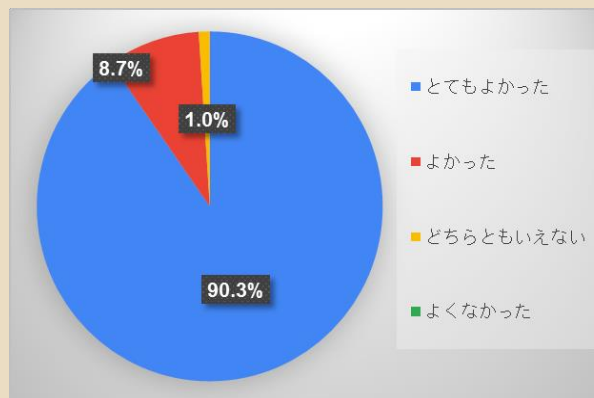
## ～先輩アドバイザー～

### 目的・課題

- 新入生が入学後の学生生活に向けて、不安解消とより良い学生生活を送るために、在學生と学務課職員が協働して、新入生学生生活ガイダンスを実施する。
- 在學生が新入生に対して「学生生活についての諸注意等」のアドバイスを行う。この企画をとおして在學生のプレゼンテーション能力を育成する。

### 学生満足度

【先輩アドバイザー】  
先輩からのアドバイス  
はいかがでしたか。



### 計画・実行したこと

- 4/4 (火) 学生生活ガイダンスを学科ごとに実施
- 各学科先輩アドバイザー 19名  
内訳：看護学科6名  
リハビリテーション学科8名  
子ども支援学科5名



### 改善点

- 新入生の入学後に発生する疑問や不安を解消するために、ガイダンス時以外に質問ができる仕組みを検討する。

# 課題 6 : 学科と協働した就職支援プログラム

## 目的・課題

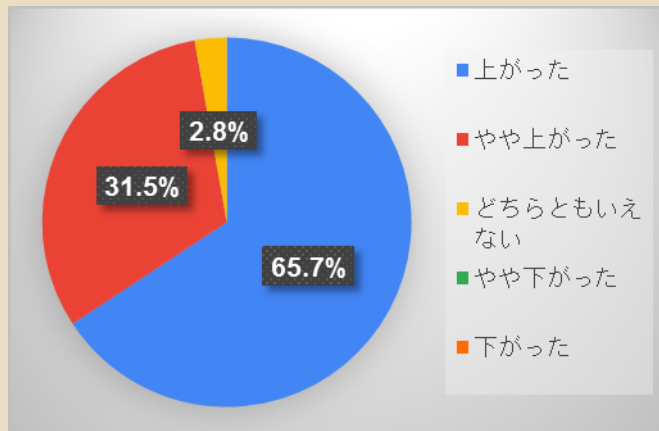
- キャリアデザインの授業と協働で行うことによって、学生の参加率を上げ、低学年から体系的に就職に向けての意識を強化する。

## 計画・実行したこと

- 7月に、キャリアデザインの授業と協働で、1年生から4年生を対象に合同でOG懇談会を開催
- 12月に、2年生から4年生を対象にキャリアデザイン&内定者報告会を開催

## 成果・学生満足度

【OG懇談会～アンケート結果～】  
今後の就職活動に活かしていくことへのモチベーションについて



- キャリアデザインの授業と協働で開催したため、学生の参加率が上がり、より多くの学生の学びの機会に繋がった。
- 学生の就職活動に対するモチベーションを上げる結果につながった。



※OG懇談会の様子

## 改善点

- 学科主催の就職講座と学務課主催の就職講座の内容の一部が重複しているとの指摘があったため、今後、学科と情報共有し、学生の満足度向上に繋げたい。



# 課題7：manabaを利用した個人サポート

## 目的・課題

- 対面だけでなく、オンライン上でも対応することで、学生への就職支援体制を強化する。

## 計画・実行したこと

- 各学科・学年ごとのmanabaのコースを設定し、4年間を通して運用する。
- 就職活動のポイントや、求人情報、就職説明会の案内などの情報をmanaba上に掲載した。
- 個別指導コレクションを用いて個別相談に応じた。

## 成果

- 個別指導コレクションにて、学生とのコミュニケーションを円滑に行うことにより、学生の困りごとや悩みをいち早くキャッチすることができ、個人に応じた支援に繋がった。



※manaba画面(参考)

## 改善点

- manabaをよく利用する学生と、あまり利用しない学生の差があるため、より多くの学生に活用してもらうよう、ガイダンス等でさらに周知を強化する。

# まとめ

- 狭山学務部では、まず、中期計画に掲げる項目を各課の課題に落とし込み、現状を明らかにして課題を抽出しました。抽出した課題はPDCAサイクルによって実行し、成果を上げています。
- 令和5年度は、狭山学務部の窓口利用者（主に学生）の利便性向上や、事務の効率化に関する取り組みを重点的に行いました。今後、さらなる改善を進めていく予定です。
- 教員の研究活動がより活発になるよう、支援体制の強化を図りました。
- 学生が企画、計画して主体的に行動できるようなプログラムを増やしていく予定です。
- 学科のキャリアデザイン授業と協働で行うキャリア支援を進めて、低学年から体系的な支援を目指します。

中期計画に  
基づいた取り組みの  
一部を紹介したよ！



かせいのモリタン

かせいのモリリン

いろんな取り組み  
があったね！！

# 令和6年度の目標

- 狭山学務部の窓口利用者のさらなる利便性向上を図る。
- 学生から届く意見や要望等を真摯に受け止め、改善・改革に努める。
- 教員の研究活動の活性化に向けた取り組みを強化する。
- DX化を視野に入れた事務改善を検討し、実現に向けた準備を進める。

千里の道も  
一歩から



- 引き続き学科間交流を深めることで、狭山キャンパスの活性化、学生生活の活発化をする。
- 教職員共働による専門性の高いキャリア支援と学生個人に向けた丁寧な就職サポートにより、ミスマッチゼロの就職支援につなぐ。

積み重ねが  
大切だね♪

# 狭山学務部の取り組みは続く . . .

次はどんな挑戦を  
しようかな？



よりよい  
キャンパスを  
目指して  
がんばろうね♪